

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第7集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.43 長篠の戦いから県道 10 号（設楽根羽線）を攻めました

（愛知県道 10 号/長野県道 10 号走破）

NO.44 県道 9 号（佐久軽井沢線）と佐久インター

（長野県道 9 号走破）

NO.45 寒ブリを求めて大雪の前に直江津に

（長野県道 338 号走破）（長野県道 340 号走破）

NO.46 信州みのわ花街道と県道 203 号

（長野県道 203 号走破）

NO.47 昼神温泉・月川温泉の「花桃の里」と古道

（長野県道 89 号走破）（長野県道 477 号走破）

NO.48 長野県道 11 号・山梨県道 11 号はほとんどが山梨県北杜市

（長野県道/山梨県道 11 号走破）

NO.49 松本環状高家線たきべ 48 号（生活道路に近い）

（長野県道 48 号）

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.1.19

長篠の戦いから県道10号(設楽根羽線)を攻めました

澤田 繁 著

(愛知県道10号/長野県道10号走破)

2020.10.6 塩尻北インターから豊田南インターまで高速で走り、衣浦豊田道路、野田インターから国道23号線を走り甲田桐山インターで降りて「西浦温泉」まで行きました。西浦温泉周辺を散策し、形原漁港の水産屋さんで海産物を買ひ、北上し第二東名の岡崎東インターで高速に乗り、東に進み、長篠設楽原パーキングで休憩。



長篠の戦いとは「1775年5月、三河の長篠で起こった織田信長・徳川家康の連合軍対武田信玄の息子武田勝頼の戦い。戦場となったのは、長篠城したらがはらと設楽原の2か所。日本で初めて鉄砲が使われたことで知られているのは設楽原での戦いです。」

パーキングからは戦場の一つである設楽原が見えたが、詳しい地名がどこかは知識不足で分からなかった。雰囲気は十分味わえた気がする。新城インターで降り、道の駅もつくるに寄り、国道151号(飯田一豊橋)を通り、長篠城跡に行きました。



長篠城跡を歩いて見ると、豊川と宇連川の合流点にあり、川で浸食した地形を活かした城だと思いました。又この地は、東三河と長野県方面と、静岡県と岐阜県方面の各所に至る陸上交通や東三河と河川の豊川で結ぶ



水上交通が交わる交通の要衝であった。

飯田一豊橋の国道151号線をしんしるしあるみ新城市有海交差点まで戻り、浜松一高山の国道257号線を岐阜方面に向かって北上を開始した。新城市・設楽町を40分くらい走り、愛知県道10号/長野県道10号の起点である三差路したらがはらに到着した。右折して県道10号(設楽根羽線)を走り始めました。終点の根羽村まで25kmのほとんどが山岳道路の道とありました。2車線は確保されており、センターラインは最初しばらくなかったが、その後センターライン付きの道路となった。設楽町八橋から津具(旧津具村)に入り、津具集落の中心にある下町交



差点を左折した。集落を過ぎると再び山岳道路になり、折元峠に向かい登りが急になっていく、折元峠で茶臼山高原道路の下をくぐると、左折すれば、高原道路に入れるが、今回は直進して9号線完走を目指す。次回高原道路を走るプランだけは立てました。

折元峠（標高901m）を過ぎると、根羽村までは長い下りとなる。根羽村の中心に入ると、長野県道40号との交点を左折し、少し進むと県道9号線の終点である国道153号線との交点に到着（県道10号走破）。

根羽村中心を一回りし、戻って県道40号を売木村方面に、県道40号線は売木村中心の先が工事中通行止めだったので、その日は国道418号線を通り、平谷村から国道153号線に入り、飯田山本インターから帰宅した。

根羽村で話題となるのは、「^{やばぎ}矢作川源流を持つ根羽村と下流域とのつながり」である。水を通じて林業を考える手本となればいいのだが？。

茶臼山高原道路を走るプランとして、飯田山本インター（国道153号）→平谷村→根羽村→愛知県豊田市稲武町（国道257号）→西納庫IC（茶臼山高原道路）→茶臼山IC→茶臼山高原（散策）＜茶臼山は愛知県の最高峰の山（標高1416m）だが登山は私無理＞→売木峠（県道40号）→売木（国道418号）→道の駅信州新野千石平（国道151号）→天龍峡インター。



《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.1.21

県道9号(佐久軽井沢線)と佐久インター

澤田 繁 著

(長野県道9号走破)

2024.1.21 全国都道府県対抗駅伝(男子)を12時15分からテレビ観戦、長野県が3連覇(10回優勝)した。ほとんど佐久長聖高校の力と言っても過言ではない。現東海大学の両角監督が1995年から2010年まで佐久長聖高校で一から築き上げた(当時トレーニングコースを作って練習させたニュースがあった)駅伝部が現在まで続いている。



2022.9.29 松本インターから、長野道・上信越道・中部横断道を通り、中佐都インターで降り、東に進むと相生南交差点に出る。旧中山道は400m程北側を走っているが狭く曲がっている。相生南交差点を左折して400mいくと相生交差点(県道9号線起点)に到着、9号線は佐久から軽井沢までの中山道沿いに路線はあったが、道路拡張などで路線が変わり、途中から国道18号線に向かう、馬瀬口交差点で国道18号と交わり、軽井沢まで重複区間(馬瀬口～追分＝北国街道)となった。

上信越道と新幹線が通ることにより、インターや駅周辺に大型店舗などが進出して、町の賑わいや道路整備による人の流れが大きく変わって、さらに発展している。

佐久長聖高校は、岩村田駅の北に佐久長聖高等学校が県道9号線の上信越道手前に、佐久長聖中学校・高等学校がある。また学校そばの、佐久IC東交差点から佐久

ICまで県道9号が分岐している(県道9号走破)。

2024.1.23 寒ブリを求めて松本インターから上越インターまで、昼前に家を出ましたが、長野道・上信越道ともすいていて、ほとんど速度設定運転(アクセルを踏まない)で1時半ころ上越インターに到着しました。「廻鮮富寿し上越みなと店」で遅い昼食、寒ブリとのおどぐろを終わりに食べて満腹でした。

直江津の駅に寄って、前にカニを食べた「越後屋」さん付近を通り、水族館前交差点で海岸に出ました。今日の海は、冬の海で波が鋭く感じた。直江津海水浴場付近の海の家

は、元旦の地震の津波による全滅に近い状態でした(この付近の人家はみなちょっと高い所にありました)。

「魚勢上越店」で、石川県産の寒ブリを刺身用におろしてもらい目的達成で帰途に着きました。谷浜から高速に乗ろうと、国道8号を富山方面に向かいましたが、名立谷浜インターの近く(茶屋ヶ原)の国道8号線が元旦の地震による土砂崩れによって通行止めになっていた、インターのすぐ近くまで来ましたが、ここでUターンして上越インターで高速に乗りました。

信濃町ICまで、雪のため速度50km制限になっていましたが、まだ路面・視界とも問題なく、通常運転で戻ってきました。松代SAに寄り休憩、更埴インターで降り、娘の家に寄って

「寒ブリ」の柵を届けて、姨捨スマートインターで高速に乗り帰宅しました。

姨捨スマートインターから更埴インターまでは、なんども乗り降りしています。最短なコースは、赤色に塗ったコースで、更埴インターを降りて国道18号線に入ります。粟佐北交差点を右折し粟佐橋を渡ると、粟佐橋西交差点(直進)で県道77号線にはいり、300m程いくと善光寺街道と交差するので、左折し善光寺街道に入り稲荷山宿に到達、稲荷山宿の西側の住宅地に娘の家があり、家に寄った後、国道403号線(昔は18号線の杭瀬下交差点から稲荷山交差点までは現在の403号線、稲荷山交差点から治田交差点を經由して治田小学校東交差点までが昔の403号線)に出る。治田小学校東交差点からは昔は、善光寺街道に沿って403号線が伸びていたが、国道18号線のバイパスが出来た後、国道403号線は、県道340号線を整備し、小学校東交差点からはバイパスと重複し、八幡峯交差点から県道340号線とも重複し、その後昔からの路線で聖高原に向かう。姨捨スマートインターに向かうには、バイパスを八幡峯交差点の先まで行き、歩道橋の手前を右折し、姨捨駅に、姨捨駅からは県道338号線の150mの狭い区間を抜け、右折して姨捨スマートインターに到達。

坂城更埴バイパスは、現在(ずっと前から?)進行中のバイパスのひとつである。国道18号線の上田から長野までのバイパスのうち、長野一千曲間は4車線化まで済んでいる。上田-南条(坂城町)まで2車線で済んでいる。坂城更埴バイパスは、千曲-南条間の19.2kmで、塩崎-稲荷山(2.6km)が工事中。稲荷山-八



幡(3.0km)が 2 車線で使っている。上五明(坂城町)―南条(3.8km)は工事中。ここまで進んでいるが、まだまだ開通には年数はかかりそう。

姨捨駅を起点(終点)にする県道が県道 340 号(姨捨停車場線)と県道 338 号(内川姨捨停車場線)で、娘の家に寄る時の、寄り道として部分的によく使う道です。県道 340 号線は、2020. 8. 28 八幡辻交差点―打沢交差点、2022. 2. 1 八幡辻交差点―姨捨駅でつなぎ合わせて完走(県道 340 号走破)。県道 338 号は、2021. 2. 2 姨捨駅―更科小学校入口交差点(寄り道として味噌蔵たかむらで味噌など購入)、2021. 4. 1 更科小学校入口交差点―内川交差点でつなぎ合わせて完走(県道 338 号走破)。

2024. 1. 23 姨捨駅に向かう途中、日も暮れて「姨捨棚田」に薄いライトアップがされて幻想的であった。

「田毎の月」が有名なところで、説明は、<この姨捨山(冠着山)を見上げる地域は、昔から「月」が趣深く見えるところで知れていた。江戸時代初期に、ため池が作られ農業用水が確保され水田が拓かれた。田植えの前後に水が張られた大小さまざまな棚田に月が映る光景は、「田毎の月」と呼ばれています。浮世絵師歌川広重は、すべての水田に月が映る摩訶不思議な情景を浮世絵に描き、「田毎の月」のイメージが広く人びとに広まりました。一目ですべての棚田に映る月が見えることはありませんが、畦道あぜみちを歩きながら目を移せば次つぎと田毎に映った月影を見ることができます。>とある。現在斜面全面に約 1,500 枚もの棚田が広がっており、姪石地区では「棚田貸します制度」(棚田オーナー制度)を平成 8 年度より実施しています。孫が小学生の頃(3・4 年前)学校単位で借りていて、その



当番にあたる時(夏)に、一緒に行きました。ここを長いこと通っていると、地区によっては、棚田維持が難し

くなっていると感じています。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.1.30

信州みのわ花開道と県道 203 号

澤田 繁 著

(長野県道 203 号走破)

訪れた事のある河津町の第 34 回河津さくらまつり、2 月 1 日～28 日と出ていました。いつが見頃か？は、開花状況を見ながら行くのが正解なのだが、2 月の 24 日頃かな？、昨年の 2 月 21 日の熱海で八分咲き、南信濃の遠山郷で 2021 年 3 月 9 日で三分から五分咲きでした。いよいよ春がそこまで。

「信州みのわ花街道」のメインは花桃で、伊北 IC もしくは伊那 IC から走る事が出来る。箕輪町長田から箕輪町富田地区までの 6km には 1200 本の花桃があり、道路沿いに多くあるのがいい。花桃の花は、白・ピンク・赤の色がほとんどで、時期は 4 月中旬から 5 月上旬にかけてだが、やはり見頃の時期がある。

2020. 8. 24 県道 203 号(与地辰野線)を通して走りました。辰野駅をスタートし、県道 19 号線は大門橋入口交差点まで南下、ここを右折したら 203



号に入ります。高速の下を通り、荒神山スポーツ公園の入り口を通り、天竜川を渡り飯田線羽場駅近くの踏切りを渡り国道 153 号に出ました。踏切を含め国道に出るまでは、1 車線の狭い道でした。国道を 200m 程南下し羽場交差点を右折、100m 程で「伊那西部広域農道」に繋がる県道 203 号の支線が出来ている。辰野町から箕輪町に入ると右手に「みのわ温泉ながた荘」と「ながた自然公園」がある。ここから「信州みのわ花街道」が始まる。「下古田の展望台」(駐車場)で休憩、伊那谷と南アルプスが展望できる場所でもあり、花

桃の写真を撮る場所でもある。写真は、2021.4.13 の夕方この駐車場で撮ったものです。

この先に以前に入った事がある「信州伊那梅園」と「伊那アルプス美術館」がある。「信州伊那梅園」は、1973年（昭和48年）の開苑以来、梅樹として竜峡小梅・信濃小梅・白加賀・豊後・養老など、花梅としては道標・紅梅・枝垂紅梅などが植えられ、約7000本もの見事な梅の花を見ることができ、日本一の規模を誇ります。沢山の種類の梅の花が毎年四月上旬から中旬にかけて咲き誇り、まさに梅花爛漫の季節と



なります。梅一般の開花よりも遅めの開花時期が要注意、売店で梅エキスを買ってきた。「伊那アルプス美術館」は、信州を中心とした風景画の作品を常時展示、季節に応じて企画展、特別展を開催、垣内カツアキの作品のほか、国内外の作家、洋画、版画を含め常時 300 点を展示してあります。小さな美術館でしたが、見ごたえはありました。垣内さんの画集を買ってきました。

花街道終点の富田地区から南箕輪村に入りました。少し県道 203 号線とは離れるが「みはらしファーム」にはよく立ち寄る。「みはらしファーム」は、体験型農業公園で温泉・宿泊施設・市場・収穫体験（イチゴ・アスパラガス・ブルーベリー・リンゴ）などが出来る。農産物直売所・とれたて市場ではイチゴなどを

<みはらしファーム>



よく買ってきた。食事としてもバイキング形式の入りやすいレストラン（トマトの木）があり、伊那方面に行くときよく立ち寄るところです。南箕輪村に入ったところから西箕輪小中学校前交差点を通り伊那インターまでの道は整備されている。

県道 203 号線の西箕輪小中学校前交差点から与地交差点までの区間は、半分は 2 車線のセンターライン付きの道であったが、まだまだ 1 車線のところがあったり、センターラインを引けない幅の 2 車線道路だったりしている。国道 361 号線との交点の与地交差点に着いた。（県道 203 号完走）

この日は、県道 203 号線を走破するのがメインでしたので、後はおまけに与地交差点を左折し、3km 行き伊那西部広域農道に入り南下し、かんでんぱぱガーデンで昼食をとり、宮田村・飯島町・中川村・中川村（西伊那線）・駒ヶ根市と周り、駒ヶ根インターから帰宅した。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.2.6

月川温泉周辺「花桃の里」と古道

澤田 繁 著

(長野県道 89 号走破) (長野県道 477 号走破)

「桃介橋」は、1922 年 (大正 11 年) に読書発電所の建設資材の運搬路として架けられた。南木曾町読書の国道 19 号線横にあり、橋を眺めながら何度か通った。これが花桃の桃と深く関係している、く木曾川を開発した電力会社社長で福沢諭吉の娘婿にあたる福沢桃介さんが、ドイツのミュンヘンに行った際に、庭に咲いていた 3 色の花桃の美しさに感動し、自分の名前に似た花の名であることから、3 本の苗を購入、大桑村の須原発電所構内に植える。>

「花桃祭り」に至るまでは以下の資料が見つかった。

[1945 年] 須原発電所に長年動めていた妻籠宿 (現南木曾町) の藤原長司さんが美しい花桃を何とか増やしたいと思い落ちた実を拾い苗木を育て、妻籠の国道 256 線沿いに植える。これが「花桃街道」の始まりと言われている。

[1974 年ごろ] 妻籠宿から清内路村 (現阿智村清内路) に嫁いだ大宮トメさんが嫁入り道具の一つとして手にしてきた花桃の木を元に、地域の人が清内路地区に花桃を増やしていく。桜より花の時期が長く色鮮やかな花桃は清内路の人々に愛され門外不出の花となる。

[1991 年] 阿智村園原に地域振興事業として旅館「野熊の庄 月川」を開業。当時社長であった渋谷秀逸さんが、平成 3 年～平成 7 年にかけて約 1000 本の苗を清内路から譲り受け旅館の周りや村道沿いに植栽管理を行う。

[2005 年] 地域住民地元業者 (はなももの会) が「花桃まつり実行委員会」を発足し、観光客向けの「花桃まつり」を開催。

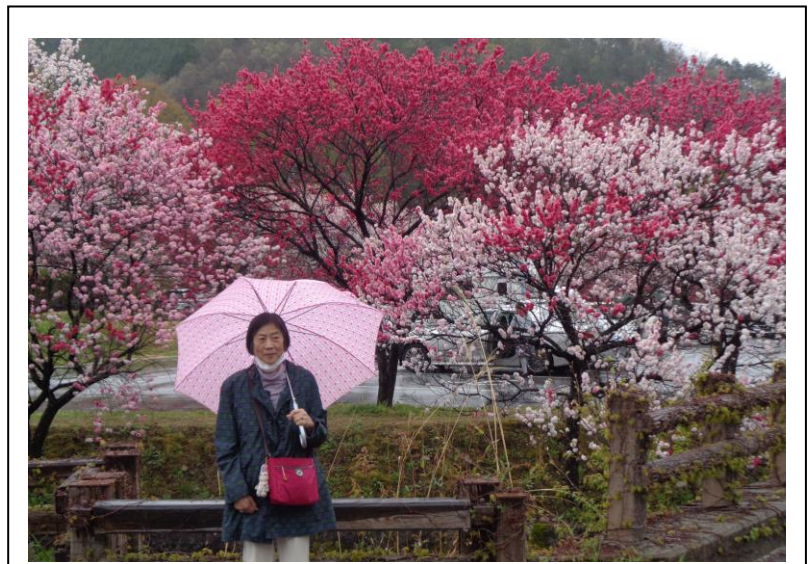
[現在] 阿智村から南木曾町へ抜ける国道 256 線「花桃街道」に約 5000



本、阿智村全体では約 10000 本の花桃が植えられている。「花桃まつり」は毎年数万人の来客があり「日本一の桃源郷」と呼ばれる。

2021. 4. 13 塩尻北インターで高速に乗り、飯田山本インター (約 1 時間) で降り、国道 153 号線 (国道 256 号と重複) を昼神温泉方面に、しばらく行くと、153 号線と 256 号線が分かれるところに出る。昼神温泉は 256 号線に行きたいのだが、左側にいかないと 256 号線にはいけない (一方方向立体) ことに注意したい (ぼやっとしてよく間違った)。

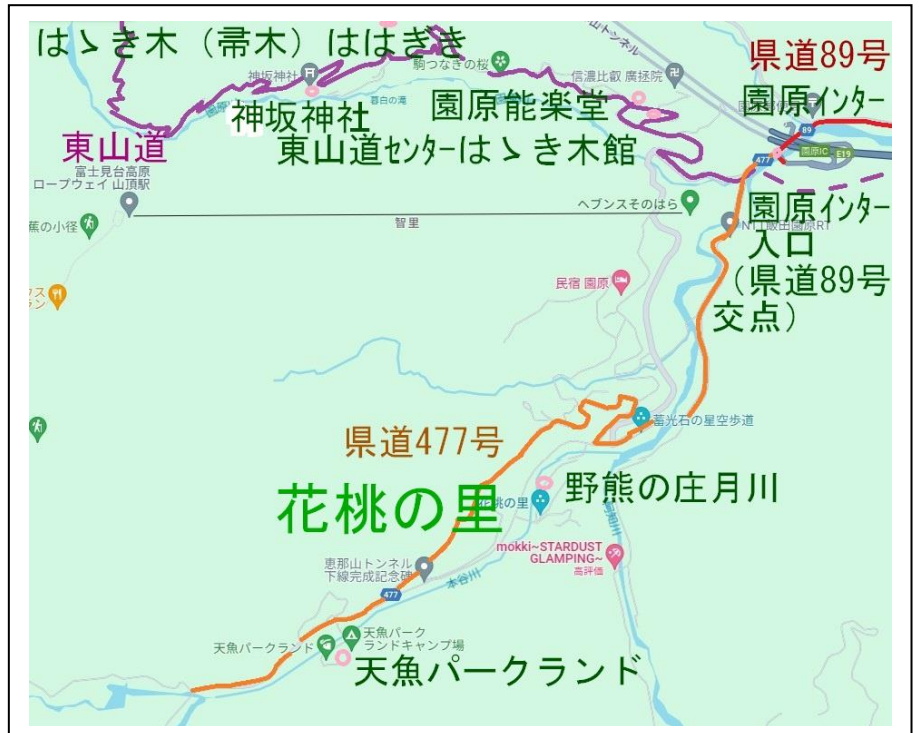
昼神温泉に到着した。昼神温泉には数回立ち寄った記憶がある、温泉目的が主であったが、今回は「花桃」を見に来ました。



昼神温泉朝市の場所の近くの駐車場に車を止めて、その周辺には花桃が多くあるところなので散策しました。満開もともないとてもきれいでした。あとは川向こうにも宿泊街があるので、車で足を延ばしました。

昼神温泉から 256 号線を木曾方面に 1.5km 程行き、左折し県道 89 号線に入りました。県道 89 号線の起点の園原インターまでは、川沿いの起伏の多く曲がりの多い道でした。園原インターに到着（県道 89 号走破＝園原インター線）。

園原インター付近から、中津川まで「東山道」が通っていたことは、前東山道を調べた時知っていたが、今回は「花桃」を優先してしまいましたので、古道の標識を見たのみでした。後日資料など調べると、^{みきか}神坂神社の先までは車で行けそう？、途中東山道センターはゞき木館・園原能楽堂・はゞき木（帚木）などがある。園原インター付近からは、網掛峠を通り国道 153 号沿いの東智里までの概ルートと、神坂峠から中津川神坂の強清水までの概ルートはわかりました。



園原インター入口交差点から県道 477 号線（富士見台公園線）が始まりました。県道 477 号周辺は桜と花桃の木が多少に関わらず植わっている。川沿いに沿っての緩やかな登りの道を進んで行く、道路端ばかりか、477 号全体に花桃が植わっている箇所もあり、今後も増設する雰囲気を感じられた。477 号線の終点近くは



民家がまだらにあり、林道も先まで行っていそうだったが、終点より少し行ったところで引き返しました。かんじんの花桃ですが、昼神温泉では満開であって期待していたが、実際は少し早く五分咲きでした。写真はネットより借用しました。「野熊の庄月川」と「天魚パークランド」の前までは行ってみました。

この日は、平谷村まで足を延ばし、売木村・南木曾町・下條村・飯田天竜と回り、春を感じて帰りました。

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.1.30

長野県道11号/山梨県道11号は山梨県北杜市がほとんど

澤田 繁 著

(長野県道11号/山梨県道11号走破)

2024.1.30 諏訪南インターで降り、左折し200m行ったところを右折すると、テクノ街道と言われる道に出ました。すぐに高速からよく見える、セイコーエプソン諏訪南事業所の入口を発見。高速の下をくぐり、南原山の信号(ここまでがテクノ街道)までが初めて通った道になりました。直進して富士見町役場が見えるところを通り国道20号線まで走りました。

国道20号線を白州まで走りましたが、旧甲州街道がところどころ少し離れたところを平行に走っている。鳶木宿のところは国道を走ると、近辺に宿場の跡が見えた。国界(かなり昔からある)が見え、下鳶木交差点を通過した後、釜無川を渡ると山梨県に入る。山口番所(信濃と甲斐との)、教来右宿跡、荒田交差点からインター白州ラインに入る前に、寄り道して、近くの昔行って試飲した、「サントリー白州蒸留所」にいきましたが、予約制になっていたの引き返しました。又今度、寄り道したいところとして「台ヶ原宿」は宿場の面影が残っている



街並みが2km程残っているようだ、荒田交差点から東京方面に約5kmほど行ったところだ。

インター白州ライン小淵沢駅方面に、釜無川を渡りループ橋を通り、県道17号線に出た所で、県道17号・山梨県道608号を通り「ひまわり市場」に到着、特色のあるスーパーマーケットで長野県のテレビにも紹介された店で、店内見学し、いろいろ長野県のスーパーでは見られないものがあった。おなががすいていたので、寿司職人が握っていたところで、2巻入り

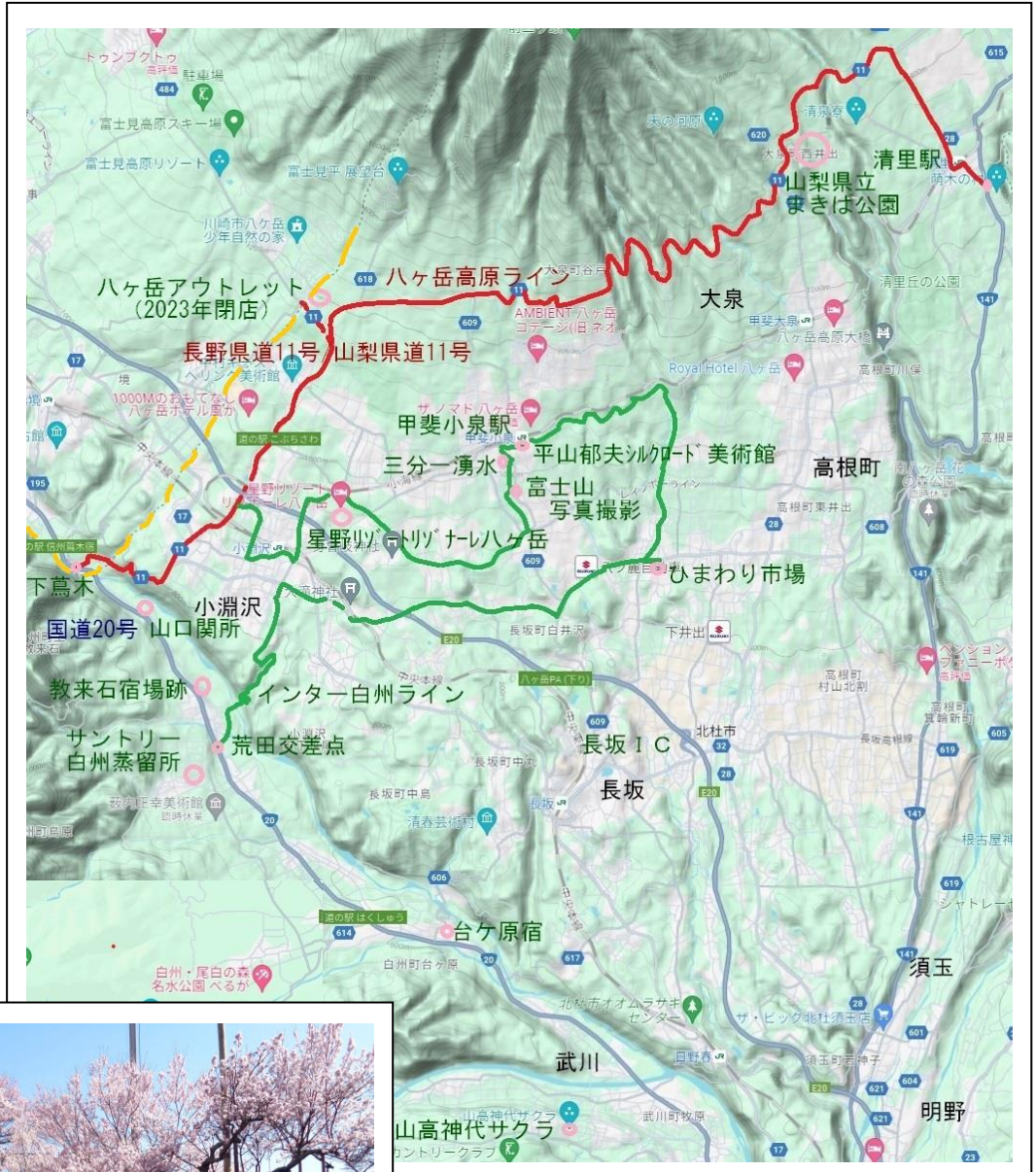


のえんがわ・しめさば。まぐろを買い食べました。大泉湧水ラインを通り八ヶ岳の裾野を登り、小海線と平行して走る道に突き当たり、平行して走る道を小淵沢駅方面に走りました。甲斐小泉駅手前にあった「平山郁夫シルクロード美術館」に車を止めて見に行こうと思いましたが様子が変わりましたので、ネットで調べたところ、冬季閉館(〜3月中旬)とありました。甲斐小泉駅を過ぎたところで左折して山梨県道609号線を下

り始めました。ちょっと下ったところが「三分一湧水」のところで、公園になっていて2022年1月11日に散策をしました。県道を外れ田んぼ道を通り、途中富士山が良く見えるところで写真撮影をしました。レインボーラインに出て、又小淵沢駅方面に向かいました。小淵沢駅に寄る途中、「星野リゾートリゾナーレハケ岳」に行くか?と言われたが次回にとっておきました。小淵沢駅で馬の像を見たあと小淵沢インターから帰宅しました。

北杜市は2006年に合併し大きな地域をもつ市になった。北にハケ岳(小淵沢町/大泉村/高根町/長坂町)・南に甲斐駒ヶ岳(白州町/武川村)・東にみずがきやま瑞牆山(須玉町/明野村)で囲まれたエリアになった。

2020.6.4 ハケ岳エコーラインから長野県道484号に、山梨県境で、県道11号(北杜富士見線)の支線に入りました。本線と一緒に、ハケ岳の山麓を走り「山梨県立まきば公園」で休憩。清里駅・国道141号線



交点(長野県道11号/山梨県道11号終点)から141号線で野辺山・小海まで足を延ばして三才山を通り帰宅しました。2020.9.22「ハイジの村」(旧明野村)の帰りに小淵沢インターから県道11号線で「ハケ岳アウトレット」(2001年~2023年)に寄り、来た道をインター方面に戻り、長野県に入りました。長野県内は500mの短区間であったが、国道20号線の交点(下葛木交差点)に到着(長野県11号/山梨県道11号走破)。その日は、国道20号・県道16号を使い帰宅。

北杜市の立ち寄れる所を開拓していますが、2021.3.23武川(北杜市)の「神代サクラ」を見に行きました。天然記念物・樹齢1800年~2000年・日本五大桜・・・

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2024.2.4

松本環状高家線48号(生活道路に近い)

澤田 繁 著

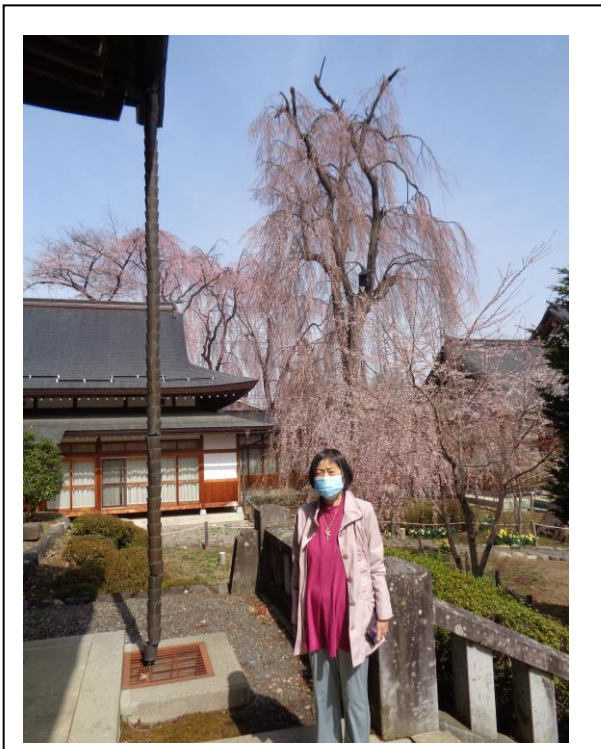
(長野県道48号走破)

清水高原から下って、唐沢そば集落近辺に来ると、東山のふもと(中山霊園のある中山の左)にやまごと桜色に覆われた小山(=弘法山)が見える。

弘法山の古墳は、私達が中山の西にある並柳団地に住んでいた時(25~28歳=1977年)に発掘され、桜もそれ以降に植えられたものが、今では山を覆うまでに成長したものと思うと年の取りすぎを感じる。

県道48号線(松本環状高家線)は、私にとっては生活道路に近い、特に高速道路(塩尻北IC・松本IC・梓川スマートインター)に乗るには、部分的に利用する事が多い。

路線は、国道19号線の松本市村井町の北、村井下町北交差点から西に進み、J3(2024年)サッカーが行われるアルウィン横を通り、川西交差点を90度曲がり北に進む、中部縦貫道の工事を横切り梓川を渡り旧梓村倭交差点を右折し北東に進む、JR大糸線の梓橋駅の近くの踏切を渡り、梓橋を渡り左折し、梓川の右岸の土手道路を通り、梓川スマートインター入口の横を通り、国道147号線のアルプス大橋東交差点が終点となる。



この路線の近くには、桜が多くある場所がいくつもある。めずらしいのは、波田の枝垂れ桜で、国道158号線沿いの安養寺境内の枝垂れ桜で、樹齢500年の二十数本一斉に咲く、写真は2021年3月30日のもの。アルウィン前の西南公園(県道48号の横)の桜も、松本空港を広げた時に植えたものが、年々花が増え、今は桜のトンネルが出来るほどになった。アイシティー(郊外型ショッピングセンター)も平成12年(2000年)に開業の時盛り土をして土手になったところ600mに桜を植えたのが育ち、車で回り道をするコースになった。又梓川の両岸にも桜が植わっており、土手道路を通れば桜を見ながら目的地に行ける。梓川土手で車をゆっくり駐車出来るのは左岸である。